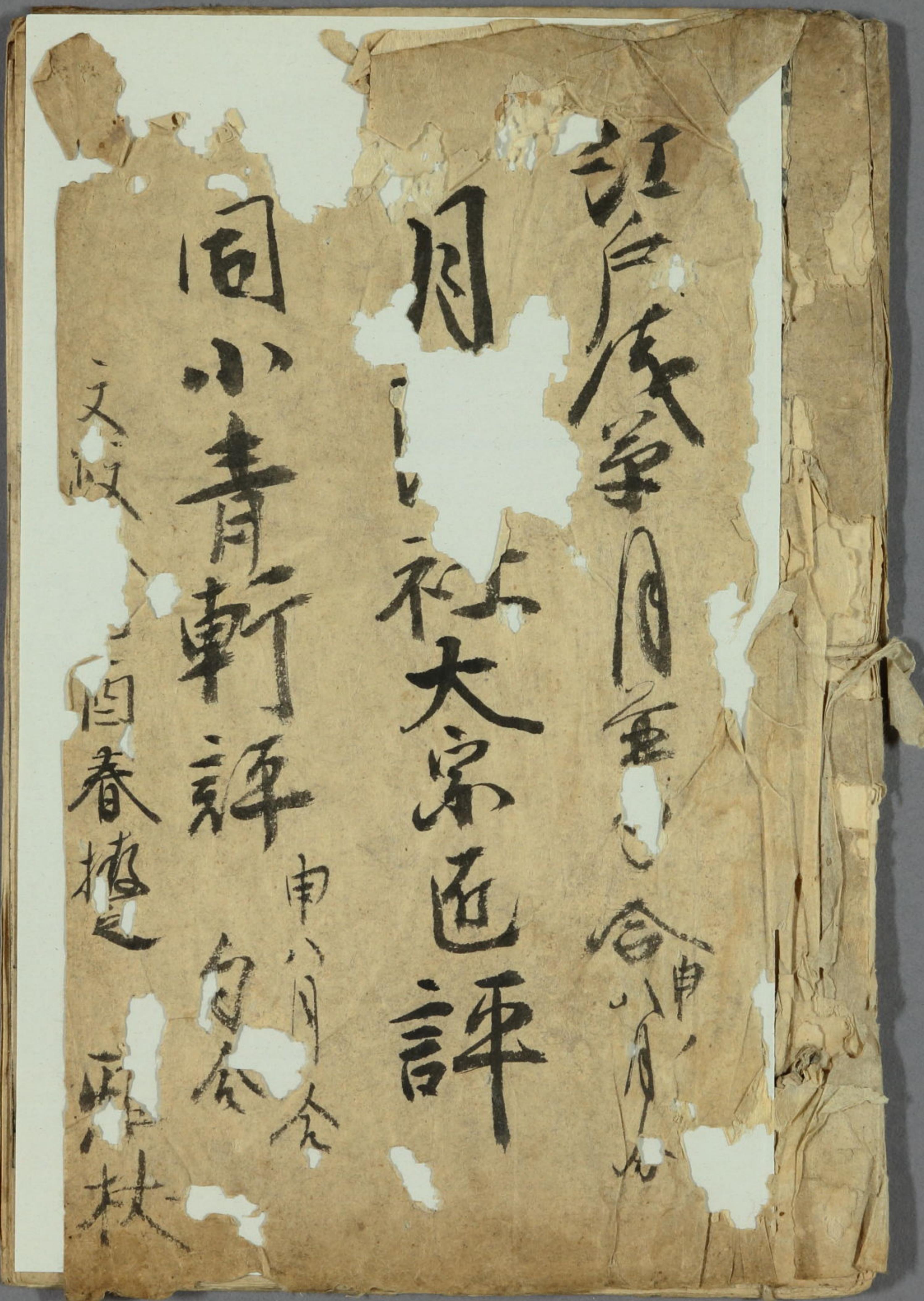


9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

JAPAN



申玉八月分
月院社大宗匠許 月益勺合

天意暖多

地

育

山

人

テ

桺

哉

外

双魚、貞女、サニ雄

風

子秋、

夏

秋

外

如水、サニ寧

漢、

亭山、

櫻景、

古水

五泉之郊

并位トモ

小々寧

ほの月をかく見るねま女房
雲を追ふ流きのちや秋の香
私風す絶えずや音の反
覆とある。うそいそらすらそらを支
えふれを抱へてはや海へゆ
初嵐へて樹あす花くの耶
ふ翁や國といさぬ室の中
きのまで雨を以て翁の元
ね風をすすめす翁の相の面
さみくねをあや多す月夜が
秋風のすのねうをゆよ斗は
萩の元高居坐して笑ふリ

ニ玉
鷗

申玉八

菊の香や後は梅の香
稟の香の順に序する月
五位聲の香もまた月の月
芦も雪を起す月の吹歌
又かゝれる松の香も月の歌
鶯啼て夕景化す檜の歌
竹と呼やすらの布とす
野春は苔も風の香の歌
りと雪を教す月の秋のくれ
お稟とス何いきと様づ
あさやうの風の吹く月の花
遠い子の才子である砧づ
やめと小笠と月や歌の風
馬と白眼と月や歌の風
流脣をさきぎたる菌
ちの風も甲斐多き一葉が
蔓ふるる物も月の風此が
けれすめうく十角馬鹿
あはむとよきや一他く菊牛込
市の根の秋を伊豆あるリ
松江

吟詠、テ、文元久良ね青、キア・テ道ア、ミ
耕吉一 柳帰三意人秀

あく秋の写するなづて若々
落葉を吹きまわる小室
後も時分の秋の走つく
雨風は序のきもれんう形
二葉小葉や霜の白玉と
楓葉よく紅もくわれて
琴の法の切一伸! 琴のすら
ちみくとてせよ秋の聲
よふ花のきつたう一花の京
はづくとく例嘗の秋の月 武カツ
月うあや網ふうて新の歌
三井寺の鐘をねるよ季のす
経方を介てさす。後
家をうえゆきの秋の夕アド
牛ゆてう風よて秋の夕アド
後初の日をかねつせ秋の元
利根川のあきくろすすやまの元
れすすも山も圓みき一切せ秋のあ
むさし竹や風も年よ序なく
つるすもえき葉すきの元

上ヶ村
下ヶ村
サコ

丸孔、孤桃、ニ桃、テ如蜜
人雲 桜辰 丘 水山鶴 宇碎

日のたましサ戸のけ田ヤ 肌ふ厚
ちまとも麻の起ホト 花の光
福もぬ人おひりノ菊の花
ア人の草の花を飲日うお
白雲の移す秋葉の花が
ぞよ吹一風を吹き尾花が
お方のけをきて走了牧乃約
山すはは世のち下麻の声
すゑてもさうあすり 鈴波充
常をくみ起力あす新うや
琳、一さよ寔の人ちの秋分ぐ
手をひてさほす身で放せ今
何かとも秋もあらうよ病うる
夕丸ノキ黄菊よ流てアスリ
笛きくももの吹きの角バハ
牌のれんしとつ肩家うれ
草の糸ふくめられだす小家
歌うや一筋の夕丸され
ね風の漫れてえき抜とぬ
月新のきうやうめれて船ド

立川
下草キ
三麦兔テテ落葉月
麥山看衰風月
麥丘越哉
西山落葉月
西山落葉月
西山落葉月

松風を破す立や 暁乃季、
か屋や水の波打、秋の雲、ほ高更四十
月の日後、安リモ画白一
木の美文月の墨ニ第ナ、め、今井
うかくと又書うむと肩、水
文あをあゆう者、枝、水
林風を薄ひ花々、庭の松、
らの山も入る、月や橋の上、
秋もと耳子とそくつまく月夜
を、夜よ薄、月や橋の上、
山形、うちも千ね、の花を玄
日のみの草の木子、秋のくの風
せうを鑿、えなとおもい、秋の風
山形、うちも千ね、の花を玄
日の裏さぬ、秋の木子、秋のくの風
ねかやうを松の木子、秋のくの風
あらぬ、近づ、秋の木子、秋のくの風
雨小の木子、秋の木子、秋のくの風
秋の山の達者と、秋の木子、
秋の山の達者と、秋の木子、

佐西亭房都

一國テ、
豊馬

山の傍支う、秋のじきれりう、ヰノ
風のたづねうを寂よや秋の森、
夜ひ女の聲遊うや秋の風、
楓はすすゑを度してゐる石佛、
旅宿傍野もすすむを生うさほの光、
旅をひぬ村裡の度の村在、
水もぬの櫻は思ひやよく薄、
水もぬ流て寺の小秋構、
菊はて聲さへ人よりアリ、
樹の枝子鳥の毛の月、
枝すす人のねうや森の木、
沙魚内や西月子面、
物が暮る秋の雨、秋中、
暮せらうひと不二よ吹りけで、
葉の毛の白き秋あやほの月、
枝すすきと今式房や木、
谷の暮秋のちく枝の実、
風の毛子家時のかくゆる子、
物が暮る秋の雨、秋中、
秋の毛の聲す接やかと夏吹り、
越上田

朱 頂
笠翁集
李和子子大孝
朗吉賀

雨の鳴回うと見ゆる、
霜のくづ松えて金アトモ、柳
水河原の葉をすむあすや島川、
水よ世の毛うまみ斗モ秋の月、
初雨をあづぬ風情、
初原アホのせ手を擦のう、ナリタ
雨敷さむね子こすの彦の秋、
利潤の方よかく下船のくえ
ちうとそも風をうきぬ柳が
船の屋よびりう秋のあ
船書エホツキ雪やひの一山、
さく候ヌ風のこやうときめく、
天の川音をえて席を下山、
人をすりあうの小まう、本筋
め下ふくむ枝又おむる、松
秋の風、秋の様、大ソカ
死聲でそ音も床をなまく、
朝方す秋の牀アシの松、
申玉八

子をおぬの人あつまひ秋の聲 東云

ちう柳人の五十音くじをなる、

月の大半はくづのアホを病

月の三日ばかり下山田の門み縫

附くとくとく又宿下秋の雨

李をおきて出でき月のれゑ

秋漱の秋もおあり泡の病め

武盤はきのれゑ

秋漱の雨まくあれて時よりく

因うに因うに原き山アハ

序系小さきまのまうちト

うきそくあれひるやす下房の奥

ナハ秋下門へかゝるの写斗

ほのかく内みほく花火

ねみともたおぬ秋う草れゑ まち田

秋歌うねくとくとく山アハ

はくゆと舞の足くらはくわ

秋歌うねくとくとく山アハ

テ育李テテ夏、ニ菊、破口テテ草令子、尚三九、魚テ
山溪 桃 札 夏 雨柳代也枝瓢 技

秋の様風ふねをかく隣もえ
ねの手すゑ冷ひぬと秋はる
青もよく雨と拂りい秋の風
暮の弓もうかくせせ小國の弓
山水の月と源流千弓の弓
水より月と源流千弓の弓
山をそむけたけの雪と山の弓
柳ちく村ちくれをせしめの弓
小國の弓夜の水とあまくねの弓
水より月と源流千弓の弓
岩そゝる水や秋山の弓
さきまきの松と雪と山の弓
目もくとくわ季の葉と山の弓
あらわしあるもとおもとめの弓
芳よまねね日さりりとくの弓
るや風やくの葉と山の弓
すくまの葉と山の弓
石をうき風ひや菊よその葉の弓
風は深風ほととたのむ白
秋やちうもとたゆむ白

五ノテ、テ馬、五ノテ、テ、貞子ナガサキ、声、ナシ、
紅、方

申王八
八
月入て砧松の弓
樹もとて冬の弓
着落さるをのすさくと氣の弓
てる影もゆく抜き差しの弓
月の月漏の弓
さみたけの木もと葉も月の弓
いきや満月くみるよ秋の弓
月までもすくねじたる砧
虫の弓風さくまのとくら
えむひくつるもう月
秋の弓土生賣の親の弓
秋の弓土生賣の親の弓

テ
ミテ、應カノナニ五ノミ王、巴ニ古テコ、ア歌ハ、チ
モテ
轄翠水持水

秋のあくや月の眉の丟はうちう
牛うひのまうをとせり牛舟や
水あて玉子がりりの木下部
足水あわめ子薄り秋の雨
生山花月あやまつを再生

天礼公松
丁山石杜
花子後、後ハナ
月賓谷

高處高モリ四点五、七、十、シホー
伍令モ四点五、十、トス以上五点高メナ九点十
足サ一高ト思フ方モ有ミ重付ウツテ内ヤ却
半洋も准之

秋に月あす

手筋の小附

伸丸

秋やううけすとさき多のを
本萬を馳のあそぶ即分う都
れ添てよす物すなうめト充
鶴立やまの面を月よーて
名たもみえや垣根の鳥う
吹うじゆ見灯りや秋の月枝ハニ
生はや都の秋を余はうて上玉ムラ
翻白中塔人よせとや新亭武カツ
音の中のゆるのゆるは子う歌ヰス
又まへたりたまく森の名あく
三川 淳月

申玉八

九

你山木も落り尽くす 雪かづ、テ免
野拂よ床の上であす牧の原下サカイサキ 豹
ゆうなき月の朝アシタノヒルメ 長短信ロクタクシン 詠
角似カクシ ほこれ物の上をまわ、西アト
来るるのあとう頃た紫アメニシ のあう、中ノ哉
白雲シロクモ のまゆされたる。やううね、れ川 和
心氣ハラス の月を あてせまうり、
ゆきまとよの夜のある月だよ、
絶景の夢アメニシ を垣根よ禽トリ、中条 雅
和アハタ の桜の岩イシ や夕暮ハヤシマ 月、
松芳マツコウ 友鳥トウトリ 宿ヨシタ

秋音やあやのくすり。ほー守
あくめて日よかひり、秋の槐アメニシ ロ
はの月ちよどとアーミリ。テ
蔓アサガホ に秋の深アカシ ぬくこう承シテ 上古カミガシ ロ
一ト里の蘿アサガホ 剣アサガホ 月アサガホ 武ムサシ 雄アシタノヒルメ 雄風
秋の風アシタノヒルメ ある。もと落葉アシタノヒルメ 加カ 在アリ 貢タケシ 史
蒲カヤ ま見て森アシタノヒルメ と秋の雨
麻アシタノヒルメ 三葉ミツバ まれぬ山アシタノヒルメ の草アシタノヒルメ
稻アシタノヒルメ すすけめてりやるの原アシタノヒルメ 玉川タマカワ 一朝イチジョウ
雨雲アシタノヒルメ お食アシタノヒルメ からを落アシタノヒルメ ほる。信天休亭シンテンキュウジン

申玉八

十

亭

山

ゆふさむよみのな——よの月
夕暮の夕所そ——おまうね トホキ 南
遍照のすすを觸るも枯尾花 玉山花 寛
花うとく參りや源す ト虎門 山
行秋や秋す トあゆ中の波 本庄 出
世の秋を僕そ——なうの——
ちく菊で世話——なき事かくらん
後の月や木すくぬまうど
松風す代る浦もな——天の川 名古田 奥
トのまも雲遊草のやまと
市 陸 秋 風 山 石 光

眼すまでもりのみ新酒や解心幸金利 中
茎承へ首を折——まく扇ひ平尾素 ふ
月参す。膝もくつさんま身魂下川 如亭
あす柳浦田の攸橋折より
菊喫や物ぞき秋の忘れ竹生在 芝童
未折や雨すてみ中の後る、賛夫 章
心こすあく以月のきぬくす丸山 石見
行亭やきを里小野の房イ馬小川丁 雨
ちくすと旅の森起を眺毛毛信を翠
窮故や跡を林をおをくテ

風の吹きり赤一 鶯飛元大代地菊和
まつらの日よこ秋よ月白が陽三
蓑よ被す思ひや秋の山下谷育
喰まくと只の叶すりゆう花
山土産の苗よ添て極れ蒸山ノ者双兔
葉の干る風もぬくと一 僧も牛込吟
菊守の天丸うかうふ八日う取平山や
猿うよ歸りて秋のをみれや椿ヶ谷虎
あきうめよとて名あの月の雨は非仄
山々や枝葉の芽もねよなる、 露曉

三日月足よと吹あひし 仙大奇
夕鳥秋か音極む至てなく おとす疏月 手
本槿極せをうちきよき善りり 吴勝之
又あすあす人あす秋の山 里妻魚月
初厚の草すみやの若ホトキモテ 文
花よき一淋しき林を漫威の美豊丁春
加茂川の水あるきよき 破うねサクラテ模
松風を吹すのーに。砍うよと回伏首簾
ゆきみて切花つよき牡丹が三毛ニ可
ねぬを消せて写しんに席トハ ほノ 杉居戎

序事やスノヘ ほの石の雨 ト ト
枯いろの付てもうく尾元シ
心うきくまく シテ 林アリ 雨キサタ元
ぬ 分てリヤ布多村の美村川越テ五
箇一かわシテモリヤ芒モリ
秋ナツ終尺より動クヤ峯の雲
木丸や因るされし至の朝 上ホニ紫
けの竹のつゆを林の風、伊豆鹿
鸣き心よもよ木火窓、サカイ有
るの尾よ風角ふき地分ト、

西石様物竜陌

松風もうせーと空も破レ下サキ秀
仁也ても京斗アヤハの月ナフ 岳
雨ヌヨモキの模様や秋の秀、 桂嵐松元
月のうす壁子ナキモキモ、 檜荒景了
新一ノ子おアリケ島の唐、 湖月
大山や音の門を竹の壳、 荒月
山口の音を崩して竹の壳、 武カリ
入の音ナカモイナウト、 桧
早起の音ナカモリイ 鳴の空 天秋下
テ 献采曉舟

死木よお柳よひく麻——りえ テ掌 漢
夜と友よ酒のうよやねの月 チ
松風の月をよほぐるお汝少 ハ
歌の風よ一木原足室めぬ ナ
雪の嘯方よす壁ぬ林のそ ナ
秋傍れ雪も行ドなほの月 チ
度深や厚のね音の月をき タ
ね哉よ歎のあや月をすふ タ
うかくとゆよのよや秋の雨 テ貞 女
厚のあを候て森よせぬ氣 ロ

立消の灯よく 康のあ テ馬 紅
山夜やあよ本想よ入邊 テ
入うる日をうさ分て青曉於 五
あようと青新てえむほの月 チ
をくつてかるよ康の思ひを歸
眼のえよ野の翁よ 杖日和
めよ花扇よかよおぬを テ古
十三夜涼拂斗アサイヨ テ巴 玉
菊の花垣穂の能れ居アリ テ
ものくじけて放ぬ壺をめ

桔尾花風舟むて 湿れり

六

かれて赤桔時の様の事

一應

水尾越の野や鳥を多ま

平

捕の石すれども秋の事

チ

牛の名すれども心て病の名

下川

病牛は利れて房すれまど、

浦

世渡すよしてまきなす菌え

武藏

中破の如き心や秋のう勢

山

跡の行方す焉あす少すば

和

床てぬと餘子の上を留子少トミサハ丁脇

安

申玉八月
小青軒評

天下魚西社

地、如亭人三經

外上月秋、羞阜、文魚、五風、軟水

か馬紅、ぬ水、テ菊和、朧月、貞女

、浦安

山、夢漢、鹿苑、虎角

、獻

茶、不以、曉梅、同馬、蘿

位五点ノ部

西雲をゆふ深きの事や秋の月
お月をくち雲井みと一月の事
思ふ秋もよ等りまづ破が
松風や聲のとされそる落葉
秋の聲のよしらふるうりうり
うきの枝を惹れてほの月
山をせて潔一秋の月の月
二夜は、丸の葉へ絶えづく
ゆゑに秋もよ落葉を打つて
雨水も雲のむすびすそ秋の月
松の葉の網もすすけとほの元

申玉八

十五

テ夢漢
テ鹿苑
テ虎角
テ蘿

良意

世の秋アトテモカクヒイ 菌トテ
秋の雨キモカサハテ壁ヨリイ
シテモト森モカモモシ於の旁
參モカム内モ消モス元カド
候モカテノテモカモモシ于花艺
候モカテノテモカモモシ于花艺
候モカテノテモカモモシ于花艺
候モカテノテモカモモシ于花艺
候モカテノテモカモモシ于花艺
候モカテノテモカモモシ于花艺
候モカテノテモカモモシ于花艺
候モカテノテモカモモシ于花艺

テ
素古收ヌテテ、青苔碧波ニテ翠食門九市利子英
東文吉魚、山荷初矢、雨化大瓢蓋中秋青板

山寺の鳥モカタメテ 英の者
ク日本ノ紺ヤ瑞穂モ多モ風
絶モカ日ノ音ナカモヘモの向
月音カテ拍子のくよ 破ラジ
宗の戸ヤセオレ込暗の先
モカ音の心子旅のた森カヌ
朝のマスモカ一たる日術不
都モカモカネモシテヨレカ内
月の雲モカ後モシテヨレカ秋
游行の尾モカシヒリ 秋の水
破涼の夜子酸モ
床筋モカミワリカ風の音
吹ラバ風カシカの小暮モ
タカのスモツミークタニウム
遍照のマスモ角毛根毛充
佐移ヤ川御モカチカテ
康の高モ金モテ御 大般
子モおさめ人モタヌカ替毛
秋風のマスモ終モ時モう孫
モカマスモ金高モカモ秋の雨
度モ日モカシモ山間の音モ縋
モカ菊モサモカモカモモモト
生の音モカシモカモモモト
月44本モカムカモモモト
モカモモモトカモモモト

口朱手
大孝頂
李調子
高子
賀未
たも津
山亭
山危川
山南
山亭
山光月
山英
山出
山定
山宗
山

秋風や序く秋れど夏の月
義守の苦を計らず十日うれ
る亭や膳房をすすねの月
夕音す稍もそぞくへ初秋山
松枝す風かく草の力うね
れを吹風斗りえ花秋れど
さひこの秋をあはせ秋の花
冬の風情モリイう勢の萩
秋風やもじりもねの本
日そ追ひ一あやきくの日氣の花
未枯す侍やちよし山の本
森入たる木の風景、ほの水
萩の本種世をあちきよき葉
又あす扇へ人へ秋のやう
三日月よむうふ秋山のうさ
はひやうのひよぢ御
腰とく扇とを一扇の季
を山や心のうくりふの月
初弓や革弓五月の入のう
うちそく秋を糸弓車ト
ぬい花咲千葉妻や青もき
従時て人をうき小妻か
初主とスミヤ翁の上に

老の木の本松すき萩やうね
善原の木や序の木へうれ
る序やそくはくはく石の雨
小さくうはくはくはく水が
山と東方き都や京の春
石の木よ萩葉ちう月を後をま
秋めりや月お上す岩のう
破きのはまういなの月
は山のまきのこへ秋のれ
月やねを放れて一頻テ
まよめよ萩木よ萩葉をま
風よ萩葉のなれをこれ
端分たりや布五時をまくら
秋里す秋アヤシムの葉
木をきくふれてもくらの葉
秋心アヤシム動くや男の葉
本意や圓みされし夏の新
萩育のあ葉ら一ノ月の葉
持せずせすけぬなあい月を育
めす秋を知ると思ひ麻の叶
めす秋を知ると思ひ麻の叶
西のうすのものもやや秋の葉
月のやうの葉すくらうす
秋のあすきほれ一萩の葉
新キモモをひく菊の花

テ
莞素櫛檜西有機織テ表裏五種光幽秀字不一毛水直五枚
于風景嵐旅持鉢白 石井林表月華眉洪用ろ萩好祐月表

可文齋雅撰文テ大英定吉舟王寔之森翠巖歌虎角長齊
戎定策笠山丈 魚山表寔持英二扇曉雨阜華

御半獻寒原
女於次

山人の暮を度してゆふト
蓑切をうのとまひやうりに
うけぬるあくちふとちよと相イ
生のあはれきさるぬらう即イ
て方の秋入る雪もなり
をくらはやか山の林のうる
景の秋月のうるもあきぬる
度もせす若むすらや林の聲
小田の君ね吹風をくらみ
ね即の月を勧めくほくを
歌風を一ぢ若くそし
秋居で雪をほりなほの月
水底の月をほりや厚の君
お吹き月と落葉のうる風
さあさけの雪をふきてほの月
小田の君お吹の水と紙吹
月波りねの景にす尺と
ね吹き月と落葉のうる風
さあさけの雪をふきてほの月
自よきすすに葉の歌のうる
菊屋や邊もあくはれのうる
小風をすうり月のうる風
やうせうき思ひや菊子を歌
月の扇くたけをうく中の音
白菊のうくえあき風情だ

テ
馬五三主キサチテニテナシテ
ハナラテ馬五三主キサチテニテナシテ
れ女

申士八
十九

三テ應キナカナフワニテ玉巴テ吉テ巴テニテ歡
鷺葦水於水
夕暮や西も東も源の夜
都まで然へぐれぬねの事
岸のもの假りを嘗つ東橋で風
舟の月を流しよせぬねの形
せう度くさて此山の席う
里の名のう葉子船ぬ

きのう十点、御
およ秋をうけて、帝や清一多
芦も雪を起すと、氣之神分吹
物ゆゑるを、休一化り、萬
湯のよえむるも、おれの床のよ
居るを、風のよくもなうて、
詠うぬふて、もう名す、おそ、後
津のあれ、さくも肩寒く
松風を吹て、まく、春の鷗
草の葉は、秋をひいて、おまざ

五ノ章

三ト青鐵琴丸如吟應
哉三丘中義人水雲季深

やまとやまよ、月有松の山人のきりじみの處。おまざ
川又あらそよすや、原の草
白雲のねふ、湯くさの月き
若みある、御のあらそや、房の月
你竹や、約は、御ある、御の門
おまざや、をと、小時く、席くる
おも物す、おそもれて、後、おも
生竹や、竹のはり、おのを
おまざの、ゆきを、お、おのを
うみる、お荒て、お素の、旗姫
おまざの、旗姫、お野の、御
主、おの、御、例、御、御、御
御魚舟や、西日す、御、御、御

朱私、御王裏、嵩尚、魚、而テ、賀、袖、袖、御、後、同、少、セ、ウ、手、ア
頂、妻、雨、御、風、山、化、托、喬、石、浦、亭、吉、山

二度まけを二度たけ跡一匁の系
せよアラクアキ家道中の元
ちも度よえより柳の下
いつとなくそのまさよち柳
「金の長訓原モヤ鳥川
初冬や紅の世草も膝の上
稻葉よ麻行雲やひのー山
友智てそ肩す原を笑ふ
竹の森木の落秋す而ハな
せの林を侘びたるトド

司馬豊友テ月
テ雄法出テ山兔
テ雄石川水風テ
テ山兔テ出テ山
テ雄風山石川水
テ山兔テ出テ山
テ雄風山石川水

浮雲のあらうアヌテ秋の水
葦塚ノ首を持一毛を尋ね
桔の赤色ゆき至ぬ落時も
瘦りて山面よ秋の際さ
引秋をちる山家の獨り
弟のあいのそれも本ノヤ次ノノ月
緑のあい墨もも落の聲も
秋色のあいなき雨よ日もり
ひうえアヌテ秋ノ雨

市陸素
テ菊和
テ里紀
叢阜長角
文魚月
五月風

ほの竹のつるぬゆアヤ秋の風
通一矢の法事もす。秋の事
雨ふる。雲のいそ。秋の山
草を焼火もゆづり。暮の秋
ぬりしをくくす。秋の風
廣はや。月のねたと。月をさ
かきの橋も消り。秋の裏
厚の夜を候て。床もせぬ。
まよ。日の風。よし。暮の風
風の。暖よさ。や秋の風

度
巣
松
竜
テ
獻
三
三
支
嘗
漢
女
テ
負
ア
馬
ウ
歎
水
印

秋風や。まづ。あく。ねの東
東雲の。おまふ。入。常。う。す
そとれ。月。本。の。月。入。ナリ
ち。や。て。よ。ゆ。秋。度。安
感吟十五首。部
氣の。香。の。漫。れ。て。暮。子。旅。ナリ
ま。氣。て。尾。花。ナ。月。ナ。月。ナ
未。初。や。雨。も。ほ。く。み。竹。の。蔓
風。を。の。あ。よ。や。時。雨。の。打。近
駒。の。尾。の。竹。庵。向。月。分。う。歌
厚。は。て。ま。く。席。流。の。雨。未。か

巴
糸
翠
糸
浦
西
賛
芝
糸
依
安
谷
安
経
丈
賛
亭
如
亭

申玉八

王

鳥
魚
於
尾
毫

判者
拉威爾
隨



